

令和3年度鳴門市撫養小学校学校評価アンケート結果と考察

鳴門市撫養小学校

1 学校評価の流れ

- (1) 児童・保護者アンケート実施 令和3年11月26日(金)～12月3日(金)
アンケート調査項目は、全市共通の「学校評価鳴門プランに基づき、学校独自調査項目を加えたものを調査用紙に印刷し配付、回収。

※回収率	R1	児童	99.6%	保護者	86.5%
	R2	児童	99.6%	保護者	95.8%
	R3	児童	100%	保護者	80.7%

児童用調査項目 鳴門プラン23項目＋撫養独自5項目 計28項目

保護者用調査項目 鳴門プラン22項目＋撫養独自2項目 計24項目

※別紙資料(児童アンケート用紙, 保護者アンケート用紙)参照

- (2) アンケート結果集計

鳴門市教育委員会学校教育課に依頼し、集計結果をグラフ化する。

- (3) 「自己評価」の集計

① 校内でアンケート集計結果を考察し、それを基に、鳴門プランと学校の自己評価をまとめる。

② 自己評価結果をもとに学校関係者評価資料を作成する。

- (4) 「学校関係者評価」を2月21日(月)学校運営協議会において実施。

学校運営協議会委員により「自己評価」を評価する。

関係書類	1	令和3年度鳴門市撫養小学校学校評価アンケート結果と考察案
	2	学校評価鳴門プランに基づく学校自己評価表

- (5) 「評価結果の報告と公表」を行う(3月上旬)

鳴門プランをまとめ、報告書を作成し、市教委へ報告する。校内では「学校関係者評価」結果をもとに公表文書を作成し、保護者へ配付するとともにホームページに掲載し結果を公表する。

2 児童アンケート集計結果の考察

※年度後の数値は「よくあてはまる」と「ややあてはまる」を合計した割合)

◎は5ポイント以上の上昇 ○は5ポイント未満の上昇

―は1ポイント未満の増減か同じ

△は5ポイント未満の下降 ×は5ポイント以上の下降

問1 先生は、毎日の授業を分かりやすく教えてくれる

H30 92.1% R1 97.4% R2 97.3% R3 95.7% △

肯定的評価の割合は、昨年度よりやや下がったが高水準にある。大きく9割を越えた児童が分かりやすい教え方と認識できるのは、学習中先生の話をよく聞いていることであり嬉しい結果である。本年度からGIGAスクール構想により、一人一台のタブレット端末が整備された。使い方等に関する研修を進め、子どもたちが学ぶ楽しさを味わえる授業づくりに努めたい。

問2 漢字や計算の力がついてきている

H30 90.5% R1 92.0% R2 86.6% R3 91.3% ○

昨年度に比べて、5ポイント近く上昇した。日々の家庭学習や朝学習の時間のミニテスト等の積み重ねの成果が現れてきているのではないだろうか。今年度から導入されたタブレットも基礎学力の充実に有効なツールとなる。有効な使用方法等について、さらに研修を進めていきたい。

問3 テストでは、思い通りの点数が取れている

H30 73.0% R1 68.9% R2 67.6% R3 73.4% ◎

昨年度より、5ポイント以上、上昇している。しかし、前問の漢字や計算の力がついてきていると答えた児童に比べると、かなり低い割合になっている。これは、基礎学力に比べて応用問題や記述式問題に対する苦手意識があるのではないだろうか。知識・技能の習得と思考・判断・表現力の育成をバランスよく行えるよう授業のあり方を追求していく必要がある。

問4 進んで運動し、体力づくりをしている

H30 85.9% R1 85.6% R2 85.1% R3 86.1% ○

昨年度に引き続き、コロナ禍のため恒例行事として業間にとんでいたMBM（撫養バーニングマラソン）、異学年集団によるなわとび集会やそれに向けての練習ができていないにもかかわらず、わずかながら上昇した。休み時間には、運動場や体育館で体を動かす児童が数多く見られる。外遊びの割合は学力との相関関係が指摘されることもある。これからも外遊びを推奨しメリハリをつけた学校生活を送れるよう指導していきたい。

問5 授業中、自分の意見や考えた事を発表している。

R3 73.4%



今年度よりアンケート項目に加えたのであるが、決して高い数値とは言えない。自分の考えを述べることに抵抗感を感じる児童が多いことがうかがえる。自分の考えを述べるということは、自分の考えをもつということであり、不透明な社会を生き抜くためには必要なことである。ペア学習やグループ学習等を取り入れるなど形態を工夫しながら、授業の中で自分の考えを述べる習慣をつけていきたい。

問6 授業中、人の話を集中して聞いている

H30 90.9% R1 90.2% R2 92.8%

R3 94.4%



集中して聞くことができている割合は昨年度よりもさらに上昇した。自分の意見をもつためには、人の話を集中して聞くことが前提となるので、学習規律の定着とともに、この高い割合を維持しつつ、苦手な児童に働きかけていきたい。

問7 宿題をきちんとしている

H30 96.3% R1 94.3% R2 93.8%

R3 96.5%



引き続き高いレベルで推移し、ほとんどの児童は宿題をする習慣がついているようである。引き続き学力向上実行プランにも家庭での学習習慣育成の具体的目標を掲げ、家庭学習の手引き等を活用し、定着できていない児童にも働きかけ、全校体制で取り組んでいきたい。

問8 グループで調べたり、話し合ったりする学習が好きである

H30 83.8% R1 87.9% R2 82.0%

R3 90.0%



昨年度より、5ポイント以上の上昇となっている。昨年度はコロナ禍の影響で、グループで調べたり話し合ったりする学習が少なかったが、今年度は、感染対策をしつつ、ある程度グループ学習の時間も確保した結果だと思う。今後の状況も見ながら、バランスよく取り組んでいきたいと思う。

問9 タブレットやパソコンを使った学習が好きである

H30 89.6% R1 88.3% R2 88.5%

R3 94.0%



今年度からは、一人一台のタブレット端末が整備され、授業中や朝学習の時間で活用しているがアンケート結果から、児童の興味の高さが伺われる。今後は、児童の興味・関心が持続し、それを学力向上につなげることができるよう研修を進めていきたい。

問10 自分には、よいところがある

H30 82.2% R1 85.2% R2 81.3%

R3 89.3%



昨年度より好評価の割合が5ポイント以上、上昇している。人のよいところを見つけるという全校的な取組の成果が徐々に現れてきているのではないだろうか。しかし、1割強の児童が否定的な回答をしている。来年度は、より多角的な視野から人のよさを見つけていくことができるよう、さらに研修を深めていきたい。

問 11 先生は、勉強や運動、生活でがんばったときほめてくれる

H30 85.9% R1 89.8% R2 89.3% R3 90.4%



昨年度と好評価の割合がほとんどかわらない。「ほめること」「認めること」「勇気づけること」「励ますこと」が大切であることはいうまでもない。一人ひとりの成長、がんばりを見逃さないように声かけをしていく必要がある。共通理解を図って取り組んでいきたい。

問 12 物事がうまくいかない時、ねばり強くがんばり続けることができる

H30 86.7% R1 84.9% R2 84.3% R3 88.5%



好評価の割合は、昨年度より 4.2 ポイント上昇した。長時間思考したり、何度も試行してよりよいものにしたりとできる粘り強さを育成するために、自己の能力に応じためあてを設定し、そのめあてを達成する方法を具体的に持つ習慣をつけなければならない。それと同時に、そのことを認め励ますことも忘れてはならない。ねばり強く、取り組んでいきたい。

問 13 自分の判断で、行動するようにしている

H30 86.7% R1 84.5% R2 81.3% R3 86.5%



昨年度より好評価の割合が上昇した。他者の助言を参考にすることも大切であるし、自分一人で判断することもできなければならない。その際には「身勝手な自己決定」でなく、他の人たちを大切にすることを根拠にした自分の行動を決められるよう、これからも道徳や人権教育を充実させる必要がある。

問 14 身の回りの整頓は、自分でできている

H30 86.3% R1 81.4% R12 84.3% R2 85.3%



昨年度より好評価の割合が、少し上昇した。「学校では、身の回りの整頓だけでなく、様々なことにおいて、自分で考え、行動し、責任をとることができる子どもに育つよう、具体的に状況を捉え、個の生活に応じた自立心の育成に取り組んでいる。学校と家庭が更に強く連携し、望ましい生活習慣を育てていくことが重要と思われる。

問 15 朝は、決まった時間に起きている

H30 84.2% R1 78.8.2% R1 76.4% R3 78.5%



昨年度に比べると、好評価の割合は若干上昇したものの、依然として8割に満たない。規則正しい生活ができるかできないかは、一日の生活を大きく左右する。また、今身に付けておかなければ将来への影響も大きいと思われる。起床時刻は就寝時刻と大きく関係している。各家庭との連携を図り、望ましい生活習慣が身につくようにしていきたい。

問 16 先生、友だち、近所の人に進んであいさつをしている

H30 82.6% R1 81.1% R2 89.7% R3 88.5%



大きく上昇した昨年度より若干下降した。高いレベルで継続できているのは、6年生が中心になって取り組んでいる「あいさつ運動」の成果であると考えられる。しかし、中にはあいさつが苦手であるという児童も存在している。そういう児童に、どのようにアプローチしていくか、工夫を要する。

問 17 学級の係や当番の仕事，そうじなどに，積極的に取り組んでいる

H30 91.3% R1 91.7% R2 94.7% **R3 94.8%**



昨年度に引き続き好評価の高い割合を維持している。どの学年の児童も依頼された作業はやるべきことが明確なため，積極的に取り組んでいる。今後，自らの気付きから一人でも進んで取り組めるような態度を身に付けさせたい。さらには，6年生における3L活動へとつなげ，ボランティア精神の育成を図っていきたい。

問 18 学級，学校の一員として，考えて行動している

H30 85.0% R1 86.0% R2 87.8% **R3 90.5%**



昨年度より，さらに好評価の割合が少し上昇した。問 16 の結果との関連が見える。これからも責任を果たす活動の推進とそれを支援する体制が整っていることを実感させることで帰属意識を育み，愛校心や郷土愛を育成したい。

問 19 地域の行事などに参加している

H30 72.6% R1 70.0% R2 69.0% **R3 61.9%**



好評価の割合が大幅に下降した。コロナ禍のため地域における行事がなくなったことが原因として考えられる。地域の理解や世代を超えた交流は郷土愛を育み，地域を活性化させる。今年度は仕方のない部分もあったので，来年度以降も地域行事の参加の効用について保護者への啓発を引き続き実施したい。

問 20 先生は，困ったり悩んだりしたときに，相談にのってくれる

H30 84.2% R1 86.7% R2 90.0% **R3 95.2%**



昨年度より好評価の割合がさらに上昇した。教師との人間関係は，近年大きな問題となっているいじめ防止の問題とも密接に関わってくる。児童が「先生は困った時に助けてくれる」という思いをもつことで，いじめの早期発見にもつながるので，この割合がさらに高まるよう，学級経営の充実に継続して取り組まなければならない。

問 21 学校へ行くのが楽しい

H30 81.7% R1 84.5% R2 86.3% **R3 86.2%**



好評価の割合は，昨年度とほぼ同じである。「学校が楽しい」と感じる背景には，楽しい状況があること（プラス要因）と，嫌なことがないこと（マイナス要因）がある。全ての児童が学校を楽しく感じられるよう，プラス要因を増やしマイナス要因を無くす実践に取り組まなければならない。

問 22 事故などにあわないよう，いつも気をつけている

H30 95.0% R1 92.0% R2 93.2% **R3 96.0%**



昨年度より好評価の割合がさらに上昇した。特に道路における飛び出しや水辺での遊びなど，ちょっとした気の緩みが重大な事故を招くことを，常に指導し続けなければならない。「自分の命は自分で守る」ということを，しっかり定着させたい。

問 23 避難訓練などは、真剣に取り組んでいる

H30 95.9% R1 95.1% R2 95.8% **R3 97.2%**



昨年度に比べて、好評価の割合がさらに上昇した。実際の訓練の様子を見ても、ほとんどの児童が集中して取り組んでいる。しかし、命に関わることなので、一部の児童の不真面目な態度も許されるものではない。全ての子に危機意識を強く持たせることができるよう、引き続き指導していきたい。

問 24 いじめはどんな理由があってもいけないことだと思う

H30 96.3% R1 95.1% R2 95.8% **R3 97.6%**



好評価の割合が、さらに上昇した。否定的な回答である2.4%の児童の、そう考える理由を丁寧に把握し、意識を変えなければならない。

問 25 3 L の 3 つの言葉を知っている

H30 92.5% R1 81.8% R2 78.6% **R3 80.6%**



本校独自の質問項目である。肯定的な回答率が若干上昇したものの、約2割の児童が否定的な回答である。本校の特色ある取組である「3 L 活動」について尋ねられた時、はっきりと自信をもって「LOVE LEAD LEARN」と答えられるよう、啓発していかなければならない。

問 26 仲良しの友だちがいます

H30 96.7% R1 95.4% R2 96.6% **R3 98.0%**



本校独自の質問項目である。昨年度より好評価の割合がさらに上昇した。友だち関係はかわることもあるし、必ずしもあせって仲良しの友だちをつくる必要はないが、クラスの中で良好な人間関係が保てるよう注視していく必要があると思う。

問 27 撫養のまちが好きです

H30 88.4% R1 89.8% R2 91.6% **R3 90.1%**



本校独自の質問項目である。昨年度より好評価の割合が少し下降した。コロナ禍の影響で地域で学ぶ学習が減少していることが原因ではないだろうか。引き続き感染状況を見ながら自分たちの住んでいる地域に誇りがもてるような学習を、各学年の教育課程に位置づけて、系統的に取り組んでいく必要があると思う。

問 28 参観日や行事の日にお家の人は来てくれます

H30 92.1% R1 92.8% R2 92.8% **R3 96.0%**



本校独自の質問項目である。今年度もコロナ禍のため制限されたが、昨年度より多くの機会をもつことができた。学校での様子を知っていただく大切な機会であるので、来年度以降も、コロナの影響も見ながら、一回でも多く参加していただけるよう、実施方法の工夫を図っていきたい。

3 保護者アンケート集計結果の考察

※年度後の数値は「よくあてはまる」と「ややあてはまる」を合計した割合)

◎は5ポイント以上の上昇 ○は5ポイント未満の上昇

—は1ポイント未満の増減か同じ

△は5ポイント未満の下降 ×は5ポイント以上の下降

問1 子どもは、学校の勉強に意欲的に取り組んでいる

H30 92.1% R1 84.4% R2 84.2% **R3 83.5%**



「学校の勉強に意欲的に取り組む態度」は、授業参観での様子から判断される場合が多いと思う。今年度も、コロナ禍のため授業参観が制限されたため、限定的な姿しか見えていない。来年度は、感染状況を見ながら、参観の機会を増やしていけるよう工夫して取り組んでいきたい。

問2 子どもの学力の状況はよくわかっている

H30 92.1% R1 88.3% R2 91.3% **R3 90.9%**



好評価の割合は、昨年度とほぼ同じである。この質問は子どもの学力状況の満足度ではなく、保護者の子どもの学力への関心度を問うたものである。保護者の方の学力への関心度は、子どもの学力の状況とも大きく関わる。学校と家庭とが連携を強め、学力向上を目指していく必要がある。

問3 学校は、基礎的な学力定着に熱心に取り組んでいる

H30 86.5% R1 87.9% R2 90.1% **R3 87.9%**



昨年度より好評価の割合が少し下降した。基礎・基本の定着には繰り返し学習というイメージが強いが、特に定着には、学んだ内容を生きて働かせられる活用の場面が重要となる。新学習指導要領がめざす主体的で対話的な深い学びの授業とも深く関わってくるものであり、そういった授業づくりに関する研修も進めていきたい。

問4 学校は、子どもの体力作りに熱心に取り組んでいる

H30 80.5% R1 81.3% R2 86.2% **R3 82.2%**



昨年度より好評価の割合が下降した。コロナ禍の影響で、体育的行事は減少していることが大きく影響していると思われる。外遊びの奨励や徒歩通学の啓発等、体育的行事以外の部分で、児童の体力を向上していくための取組も強化していく必要がある。

問5 学校は、子どもの学習規律の定着に熱心に取り組んでいる

H30 81.4% R1 90.9% R2 90.2% **R3 90.1%**



昨年度とほぼ同様の割合である。学習規律は学力向上とも直結する大きな問題であり、家庭との連携も大切となる。この割合がさらに上昇していくよう全校的な取組が必要である。

問6 子どもは、家庭学習(宿題)をきちんとしている

H30 94.0% R1 88.3% R2 94.0% **R3 93.5%**



好評価の割合は、昨年度とほぼ同じである。児童問7結果の好評価の割合が高いのは、保護者の確認によって、宿題を仕上げる事ができているからと考えられる。これからも家庭学習(宿題)ができているかどうかの確認やそこでの言葉かけなどについて継続してもらえよう働きかけていきたい。

問7 子どもは、自分のいいところを理解している

H30 80.0% R1 74.4.0% R2 78.2% **R3 74.5%**



好評価結果の割合は昨年度に比べて下降した。この問いは次の「子どもがよいことをした時に積極的に褒めている」というものと直結するものであり、自己有用感の形成と大きく関わるものである。さらに、子どものよさを認め励ますことと合わせて、保護者への啓発を図っていきたい。

問8 子どもがよいことをしたときは、積極的に褒めている

H30 93.5% R1 94.4% R2 94.1% **R3 94.4%**



昨年度と好評価の割合は、ほぼ同じである。自己有用感は、自分以外の者から、特に家族から肯定的に受け入れられることによって育まれる。学校はもちろん、保護者や地域への啓発も続けていきたい。

問9 子どもは何事にも粘り強く取り組む

H30 67.9% R1 60.6% R2 64.5% **R3 64.0%**



問10 子どもが粘り強く取り組めるよう、家庭でも応援している

H30 88.4% R1 86.6% R2 89.0% **R3 87.9%**



問9、問10ともに、昨年度と好評価の割合は若干下降している。粘り強さが弱いと、自己憐憫や、他者非難に結びつきやすい。粘り強さを身に付けていくためには、家庭での応援、励ましも大切だと思われるので、啓発を図っていきたい。

問11 子どもは、自分の身の回りのことを自分でしている

H30 82.8% R1 79.6% R2 81.4% **R3 80.5%**



好評価の割合は、昨年度とあまりかわらない。児童問13「身の回りの整頓は、自分でできている」の好評価の割合と5ポイント程度のずれがある。自分の身の回りのことを自分でするという事は自立への第一歩であり、小学校卒業までにしっかりと身に付けておいてほしいところである。今後とも、家庭との連携を図りながら取り組んでいきたい。

問 12 子どもは、ルールを守る意識が育っている

H30 91.6% R1 91.8% R2 92.9% **R3 91.3%**



昨年度より好評価の割合が少しだけ下降した。集団生活を通してマナーやルールを理解させ、守る意識を育てるとともに、人間関係力などを育むことを継続したい。

問 13 子どもは、先生、友達、近所の人に進んであいさつをしている

H30 78.1% R1 74.1% R2 77.5% **R3 74.0%**



好評価の割合は昨年度より下降した。また、子どもの問 15「先生、友達、近所の人に進んであいさつをしているか」の結果と比較すると10ポイント以上の開きがある。あいさつは人間関係を作る上でも大切なものであり、今後とも気持ちのよいあいさつが定着するよう、家庭と連携しながら取り組んでいきたい。

問 14 子どもは、人のことを大切にして、友だちと仲良くしている

H30 95.8% R1 93.5% R2 95.2% **R3 96.1%**



昨年度に比べ好評価の割合は、ほぼ同じである。好評価の割合が高い水準で推移しているのは、本校が取り組んでいる人権教育、道徳教育等を理解していただき、家庭と学校が歩調を合わせて、子どもたちの心の教育に取り組んでいる成果ではないだろうか。さらに、この割合が高まっていくよう連携して取り組んでいきたい。

問 15 子どもと社会や将来のことを話し合っている

H30 63.7% R1 65.8% R2 67.2% **R3 67.5%**



好評価の割合は、昨年度とほぼ同じである。主体的に生きていくようにするためにも、中学や高校、大学、仕事などに関して楽しい話を聞かせること、さらに教職員や保護者が人生や生活を楽しむ姿を見せること、社会や将来のことを語ることなどを啓発していきたい。

問 16 子どもは、学校のことをよく話してくれる

H30 77.7% R1 77.5% R2 76.6% **R3 79.7%**



昨年度までに比べて、好評価の割合が若干上昇した。話す・聞くは車の両輪であり、子どもは聞いてくれる環境が整っていないと進んで語ろうとはしない。今年度のよい傾向を、来年度以降にも引き継いでいけるよう、啓発を行っていきたい。

問 17 子どもは、楽しんで学校に行っている

H30 86.0% R1 87.0% R2 91.3% **R3 92.2%**



好評価の割合は、昨年度とほぼ同じである。児童問 20「学校へ行くのが楽しい」の好評価の割合とのずれも気になるところである。学校が楽しくなる要因には、学校や家庭での様々な状況が考えられる。学校と家庭が情報を交換し合い、一人一人の状況を把握し、連携しながら楽しい学校生活をおくることができるよう支援する必要がある。

問 18 子どもが交通ルールを守るよう、働きかけている

H30 96.3% R1 95.6% R2 96.8% **R3 96.1%**



好評価の割合は例年と変わらない。子どもの命に関わることであり、全ての方が子どもの安全に働きかけるよう啓発を継続しなければならない。

問 19 子どもと防災のことについて、家で話し合っている

H30 67.4% R1 63.2% R2 66.4% **R3 64.5%**



昨年度より好評価の割合が下降し、ここ数年、低い割合で推移している。いざという時に備え、家庭での防災についての話し合いは重要な課題である。

問 20 学校は、いじめや生徒指導の問題について、素早く対応してくれる

H30 74.4% R1 82.3% R2 86.2% **R3 83.1%**



昨年度より好評価の割合が下降した。いじめは、初期対応が大切になってくる。学校と家庭が連携し、深刻ないじめの事態を招くことがないように、対応の素早さ、対応過程、対応結果内容など全てに留意し、事案一つ一つに真摯に対応し、丁寧な取組を心がけていきたい。

問 21 学校から、情報が十分発信されている

H30 74.4% R1 79.2% R2 85.3% **R3 80.5%**



好評価の割合が、昨年度より下降している。発信情報には個人的なものや学級・学年・学校共通のものがある。これからも個人情報の保護や守秘義務などに十分配慮し、伝えたい情報と知りたい情報が相応するよう、可能な限り発信していきたい。

問 22 学校行事などに積極的に参加している

H30 85.6% R1 87.5% R2 81.8% **R3 86.2%**



昨年度より好評価結果の割合が上昇した。今年度は、コロナ禍の影響で学校行事がほとんど行えていないが、実施した時の参加率は高かったように思う。来年度以降、感染状況を見ながら、少しずつ再開できればいいと思う。

問 23 子どもは、ゆとりのある生活を送れている

H30 75.8% R1 78.8% R2 76.7% **R3 80.5%**



昨年度より好評価の割合が上昇した。子どものゆとりは大人のゆとりに大きく影響されていると思われる。ゆとりがあれば何事もうまくいくということでもないだろうが、ゆとりがあるに越したことはない。ただし、ゆとりが気の緩みを生むことにならないよう注意する必要がある。

問 24 PTA 活動に参加している

H30 87.4% R1 85.7% R2 77.5% **R3 73.6%**



昨年度に引き続き、好評価の割合は大きく下降した。ここ2年間は、コロナ禍の影響でPTA活動が大きく減少していることが要因であると考えられる。元来、PTA活動の活発な学校であり早く元の姿にもどることを願っている。

